

第6章 その他の取組

周産期母子医療センターにおけるスタッフの退院支援に必要な知識や技術を習得することを目的に、NICU スタッフ向け研修会を実施した。さらに、退院後の地域における継続した支援の必要性から、地域の関係機関スタッフへの退院支援の取組の普及啓発、及び人材確保を目的として、保健所・保健センター保健師向け研修会、訪問看護ステーション看護師向け研修会、地域の小児科医師向け研修会を実施した。また、NICU 入院児支援コーディネーターの役割を担う職員を対象に、NICU 入院児支援コーディネーター連絡会を開催した。

1. 研修会

(1) NICU スタッフ向け研修会

平成 22 年度実績

新生児科医師・NICU 看護師による NICU 長期入院児の現状や退院支援の実際についての講義、退院児をもつ母による入院中、退院後の気持ちなどについての講義を実施した。また事例をもとに各施設の情報交換を行った。

開催日・場所	平成 22 年 8 月 4 日 都庁
テーマ・講師	① NICU 長期入院児と在宅支援 都立墨東病院新生児科部長 渡邊 とよ子氏 ② 退院支援の実際 日本赤十字社医療センター NICU・GCU 看護師 金子 まなぶ氏 ③ NICU 卒業生の母親
参加者数	78 名 (看護師・助産師 52 名、MSW 12 名、医師、栄養士等)
アンケート結果	「参加してよかった」が 9 割以上を占め、特に「他の施設の話がきけて良かった」という声が多かった。「現在行っている退院支援について改善する点がある」との回答は 8 割以上、「地域との連携が十分でない」は 7 割以上であった。

平成 23 年度実績

地域での関係者の活動と役割について理解を深めることを目的に、退院後の地域に焦点をあて、保健所・保健センターの保健師の家庭訪問等の活動や、訪問看護ステーションの訪問看護の実際について講義を行った。

開催日・場所	平成 23 年 8 月 3 日 都庁
テーマ・講師	① NICU 退院児の地域支援について～母子訪問の実際を通して～ 足立区中央本町保健総合センター保健師 名生 道子氏 ② NICU 退院後の在宅生活について～訪問看護の実際～ cocobaby 訪問看護ステーション看護師 池田 詩織氏
参加者数	54 名
アンケート結果	「退院にあたり地域との連携をとったことがあるか」では、「ある」が約 7 割であり、「医療ケアが必要」「母の養育力が低い」ケースを挙げた者が多かった。

【参加者の感想】

- 他の施設の状況は自施設の参考になり、退院支援を見直してみたい。
- 母の心理的不安や児の医療ケアの大変さ、支援の必要性について理解できた。
- 病院と地域の連携の必要性を感じた。

(2) 保健所・保健センター保健師向け研修会

平成 22 年度実績

周産期母子医療センターにおける NICU 長期入院児の現状やモデル事業での取組、在宅移行支援で関わった地域の関係機関の取組など、それぞれの立場から活動を紹介した。また、NICU 退院児をもつ母親が求めている支援についての情報提供を行い、今後の支援に活かしてもらった。

開催日・場所	平成 23 年 3 月 9 日 都庁
テーマ・講師	① NICU 長期入院児と在宅支援 都立墨東病院 NICU 新生児科部長 渡邊 とよ子氏 ②モデルケースによる退院に向けた支援体制 都立墨東病院 NICU 入院児支援コーディネーター 桜井 範子氏 稗田 潤氏 ③ NICU 退院児の在宅生活とその支援 cocobaby 訪問看護ステーション看護師 阿部 詩織氏 ④ NICU 退院児の在宅生活とその支援～在宅支援の方法～ 大田区保健所保健師 金高 加代子氏
参加者数	53 名 (27 自治体、3 都保健所)
アンケート結果	アンケート結果 参加理由では「業務に活かせる」「興味があった」がほとんどであり、自由記載からは、今後の活動に活かしていきたいという声が多かった。

平成 23 年度実績

周産期母子医療センターにおける入院児支援コーディネーターのケース支援と担当保健師の関わりを紹介し、医療ケアの必要な乳幼児の在宅移行支援における地域のコーディネーターとして期待される保健師の役割や、病院との連携、地域の課題などを考える機会とした。

開催日・場所	平成 24 年 1 月 31 日 都庁
テーマ・講師	①モデル事業とコーディネーターの取組 都立墨東病院 NICU 入院児支援コーディネーター 稗田 潤氏 ②医療的ハイリスク事例への支援 都立墨東病院 NICU 入院児支援コーディネーター 桜井 範子氏 葛飾区保健所小菅保健センター保健師 富里 友季子氏 ③まとめ 在宅移行支援にかかわる保健師の活動と役割 武蔵野大学 看護学部准教授 工藤 恵子氏
参加者数	52 名 (33 自治体、3 都保健所)
アンケート結果	「医療ケアの必要な児の担当経験」では、約 6 割があった。「病院との連携方法として必要なもの」として多かったのが「児が入院中の病院訪問」「地域と病院の連絡会」「地域と病院での協働したグループ支援」が多かった。

【参加者の感想】

- 周産期からの退院支援について医療機関との連携、体制づくりを考えたい。
- コーディネーター機能は、地域の状況を知っている保健師の役割とあらためて感じた。

(3) 訪問看護ステーション看護師向け研修会

平成 22 年度実績

乳幼児の訪問看護を担うステーションが少ないといわれる現状から、現在、成人や高齢者を対象に訪問看護を実施しているステーションも含め、都内全訪問看護ステーションに対して研修案内を行い、NICUの現状や乳幼児の訪問看護を知ってもらい、乳幼児の受け入れが促進されることを目指した。

開催日・場所	平成 22 年 11 月 2 日 都庁
テーマ・講師	① NICU 退院支援モデル事業について 東京都福祉保健局医療政策部 ② 乳幼児訪問看護の実際 cocobaby 訪問看護ステーション看護師 矢部 瞳氏
参加者数	74 名 (48 施設)
アンケート結果	乳幼児の訪問看護を経験しているステーションが約 7 割、乳幼児の利用者がいるところも約 6 割と、予想以上に乳幼児もしくは小児の訪問看護を行っているステーションの参加が多かった。具体的な乳幼児看護の知識を期待していた。

平成 23 年度実績

乳幼児や小児に対する看護経験や知識の不足に対する不安があることから、退院後の医療ケアのポイントに主眼をおき講義を行った。また、NICU から退院した児をもつ母から入院中や退院後の気持ちなど実際の話聞く場を持ち、今後の支援に活かすことを目指した。

開催日・場所	平成 23 年 11 月 9 日 都庁
テーマ・講師	① NICU 退院支援モデル事業について 東京都福祉保健局医療政策部 ② NICU 退院児の在宅看護ケアのポイント cocobaby 訪問看護ステーション看護師 矢部 瞳氏 ③ 骨形成不全症の児を持つ母の NICU から在宅までの道のり NICU 卒業生の母親
参加者数	69 名 (27 施設)
アンケート結果	経験や知識不足への不安があったが、講義により、「在宅移行後の児や家族の生活や医療ケアのイメージがついた」が多かった。

【参加者の感想】

- NICU 退院児の成長発達やケアのポイントに関して学ぶ場が少ないのでよかった。
- 訪問看護ステーションの診療報酬など経営に関する情報共有もできよかった。
- 地域と病院との連携体制づくりが必要と思った。

(4) 地域の小児科医師向け研修会

平成23年度実績

周産期母子医療センターにおける退院支援の取組と、小児在宅医療への関心や問題意識を持つ地域の小児科医師が増えることを目指し、退院支援に取り組む新生児科医師と退院後の地域の在宅医療を担う小児科医師の両方の立場から講義を行った。

周知には、東京都医師会、東京小児科医会の協力を得て都内の診療所へ広く周知を行うとともに、診療報酬上の在宅患者訪問診療（乳幼児加算）を算定している診療所等へ、あわせて個別案内を行った。

開催日・場所	平成23年11月30日 都庁
テーマ・講師	<p>①在宅医療が必要な子供への支援 ～ NICU 入院児の在宅移行支援の取組と地域在宅医療の現状～ (NICU の立場から)</p> <p>都立墨東病院新生児科部長 渡邊 とよ子氏 都立墨東病院 NICU 入院児支援コーディネーター 桜井 範子氏 稗田 潤氏</p> <p>(在宅医療の立場から)</p> <p>子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田院長 前田 浩利氏</p>
参加者数	103名（うち、地域の診療所医師は16名）
アンケート結果	<p>参加した診療所医師の全員が「非常に役立つ」「たぶん役立つ」と回答しており、乳幼児の診療が可能という医師が4名、依頼内容によっては可能という医師は6名であった。重症児への対応、経管栄養・在宅酸素についてなど、在宅医療の専門的な知識や実践的な内容を聞きたいという要望が多かった。他に「入院先の確保や重症児への対応が難しい」「家族支援が不十分と感じる」「バックアップがほしい」「保険診療のポイント的なものがほしい」などの感想や意見があった。</p>

【参加者の感想】

- 病院と在宅の両方の視点から聞けることが大変勉強になった。
- 不採算の分野であり診療への具体的な話は進まない。
- 予防接種などであれば、児がある程度成長しており、小児の診療経験があれば、成人・内科でも対応可能であると思う。
- 内科であるが、小児訪問診療をもっと行う必要があると感じる。

2. 連絡会

(1) NICU 入院児支援コーディネーター連絡会

平成 23 年度実績

今後、都内の周産期母子医療センターに入院児支援コーディネーター機能の配置を促進し、NICU 入院児の退院支援に向けて院内外のコーディネート機能を強化するために、各施設の中で、NICU 入院児支援コーディネーターの役割を担っている看護師及びソーシャルワーカーを対象として、情報交換や資質向上を目指すことを目的として開催した。

開催日・場所	平成 24 年 1 月 18 日 都庁
テーマ・講師	①モデルケースの退院支援 ～ NICU 入院児支援コーディネーターの取組～ 都立墨東病院 NICU 入院児支援コーディネーター 桜井 範子氏 稗田 潤氏 ②退院児の在宅生活の現状と早期支援・地域連携 NPO 法人 Ohana 有馬 夕紀氏 ③各施設の取組・情報交換
参加者数	63 名（周産期母子医療センター及び連携病院より 30 施設）
アンケート結果	アンケート結果「今後も、コーディネーター向けの研修会、情報共有、勉強会など定期的に開催してほしい」という要望が多かった。時間が限られているので、連絡会でだされた意見の中からテーマを一つ一つ絞って深めていくことや、地域ごとにグループワークをする案などが出された。

【参加者の感想】

- 医療依存度の高い児の増加や入院の長期化など現状や課題が同じであった。
- 参加者全員で顔あわせができ、参加施設全ての状況や意見交換ができてよかった。
- スクリーニングなど他の施設の取組を参考にし、自施設のシステムを作りたい。
- 病棟や各診療科などを巻き込みたい。
- 資源情報など地域性があるので、都内の情報を整理すると実践に活かせると思う。